

2010年5月25日 利用者の中川圭右が、岡崎市立中央図書館のHPに集中的にアクセスして閲覧しにくくする

目的:自作プログラムで新着図書データを自動的に収集する

⇒図書館のサーバが頻繁に停止

⇒システムを管理するMDISに対策を求めるも、解決できず(Librahack事件)

⇒警察に届け出る

⇒偽計業務妨害の疑いで逮捕⇒20日間勾留

⇒しかし閲覧障害の真の原因はMDISの図書館システムにあった

⇒6月14日に起訴猶予処分→釈放

岡崎市中央図書館大量アクセス事件

○警察への届け出が利用者の個人情報漏洩につながることもある

⇒警察の指示を**全て受け入れるのではなく**、図書館側がリスクと被害状況を分析し、調査は必要最小限であるべき

○被害届を出す前に利用者のデータを警察に自ら提出との報道について

⇒提出すべきではなかった

○MDISのシステムが原因とわかり謝罪したものの、結果一時的に利用者の身体的自由を奪うことになったことについて

⇒残念だが、和解までの努力は認める。



情報漏洩



picta.jp - 41771268

図書館自由委
員会の見解

○自分で罪を認めたつもりはない

※検察官側：リクエストを大量に送ることで図書館のサーバに影響が出ることを予想できたはず

○故意でないことを認めてもらうためにすべきだったことは？

⇒刑事事件における「故意性」「過失罰」について理解すべきだった

＋故意の否定もすべきだった

○警察への届け出が取り消されず

⇒この事件が犯罪であったという誤解が広まったまま

⇒公式に発表して欲しい

(中川氏の社会復帰を願う共同声明を出し、和解はした)



中川氏



故意



被害者側の見解